

# 「MY TREEペアレンツ・プログラム」の効果測定(2010年度～2018年度)

## 1. 目的

「MY TREEペアレンツ・プログラム」の実施前後に行ったアンケート調査を比較検討することによって、「MY TREEペアレンツ・プログラム」の効果について分析を行う。

## 2. 調査方法

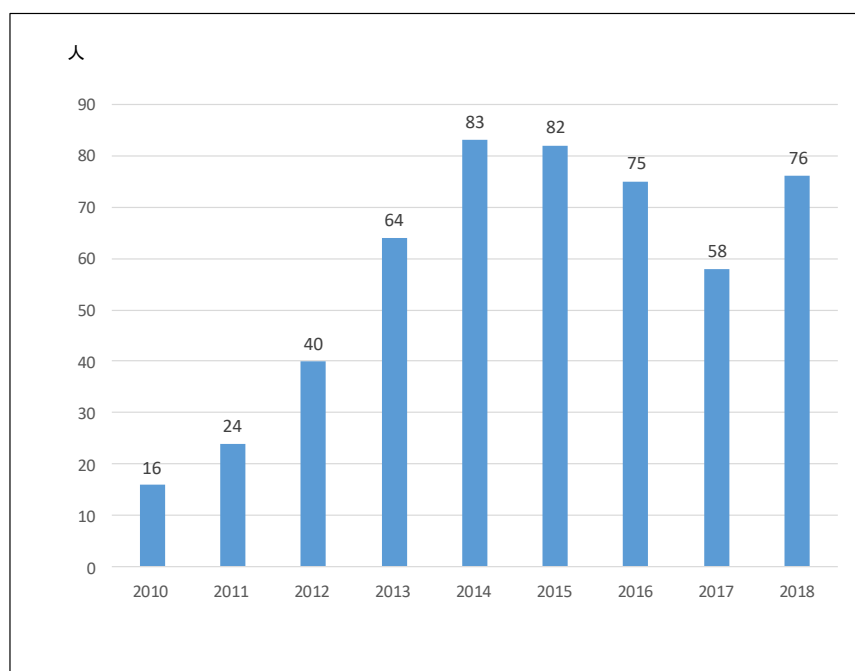
### 2-1 調査期間と調査対象

2010年度から2018年度に実施した「MY TREEペアレンツ・プログラム」の参加者に、プログラムの前後にアンケート調査を実施した。対象は、表2-1と図2-1に示すように「MY TREEペアレンツ・プログラム」に参加した518人である。ただし、アンケート調査項目の欠損値の多い人は省いた。

表2-1 調査対象

年度	人数	%
2010	16	3.1
2011	24	4.6
2012	40	7.7
2013	64	12.4
2014	83	16.0
2015	82	15.8
2016	75	14.5
2017	58	11.2
2018	76	14.7
合計	518	100.0

図2-1 調査対象



参加者の平均年齢は、表 2-2 に示すように、36.6±6.0 歳（最小年齢 20 歳，最大年齢 54 歳）であった。ただし、年齢が未記入であった 1 人を省いた。

表 2-2 参加者の平均年齢

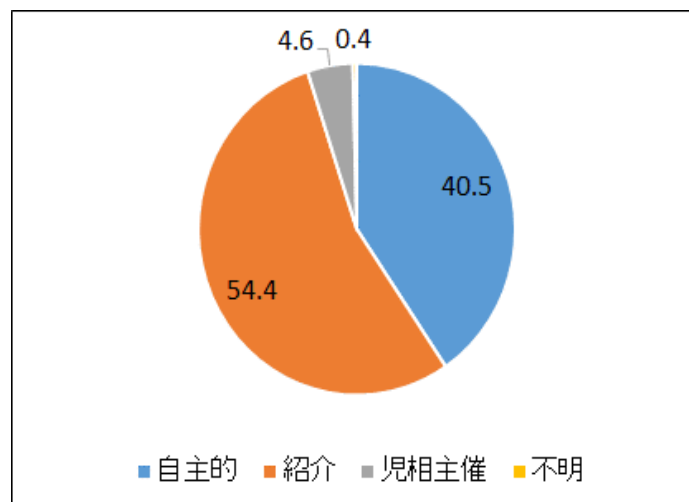
	人数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
年齢	517	20	54	36.6	6.0

参加経路別にみると、自主的参加は 210 人（40.5%），紹介は 282 人（54.4%），児童相談所主催/紹介は 24 人（4.6%），不明 2 人（0.4%）であった。

表 2-3 参加経路

参加経路	人数	%
自主的	210	40.5
紹介	282	54.4
児相主催	24	4.6
不明	2	0.4
合計	518	100.0

図 2-2 参加経路



## 2-2 調査内容

調査項目は、育児意識に関する 13 項目（順序尺度：1「はい」、2「どちらかといえばはい」、3「どちらかといえばいいえ」、4「いいえ」の 4 件法）、自己評価に関する 15 項目（順序尺度：1「全くない」、2「年に 1・2 回ある」、3「月に 1・2 回ある」、4「週に 1・2 回ある」、5「ほとんど毎日」の 5 件法）と、子育て状況に関する項目 9 項目（名義尺度：「はい」、「いいえ」の 2 件法、ただしⅢ-5 の項目については「過去」「今」「いいえ」の 3 件法）である。

## 3. 分析方法

### 3-1 基礎集計

すべての項目について、基礎集計を行った。

### 3-2 子育て状況：クロス集計

子育て状況については、プレとポストアンケート調査の関連性を検討するために、クロス集計を行い、カイ 2 乗検定を行った。

### 3-3 育児意識と自己評価：Wilcoxon の符号付き順位検定におけるプレとポストの比較

プレとポストの関連をみるために、育児意識と自己評価の項目についてはウィルコクソンの符号付順位和検定を行った。なお、この検定を用いたのは、各項目についてシャピロ・ウィルク検定を行った結果、正規分布を示していなかったからである。

### 3-4 育児意識と自己評価に関する下位尺度得点の算出

育児意識や自己評価に関する項目については、因子分析（重みなし最小二乗法、プロマックス回転）を行い、下位尺度得点を算出した。なお、得点化するにあたっては、育児意識や自己評価について否定的であるほど得点が高くなるように得点を付値した。

なお、因子分析を行うにあたっては、「MY TREE ペアレント・プログラム」実施後に行ったポストアンケート調査のデータを使用した。

### 3-5 育児意識や自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較

育児意識や自己評価の因子分析結果から得られた下位尺度得点について、「MY TREE ペアレント・プログラム」実施前後を比較するためにウィルコクソンの符号付順位和検定を行った。

## 4. 調査結果

### 4-1 子育て状況の変化

表 4-1 子育て状況のクロス集計とカイ 2 乗検定

項目	回答	プレアンケート調査		ポストアンケート調査		正確有意確率	漸近有意確率
		人数	%	人数	パーセント		
Ⅲ-1 子育てを手伝ってくれる人がいる	はい	386	79.6	405	83.5	0.000***	
	いいえ	99	20.4	80	16.5		
	合計	485	100.0	485	100.0		
Ⅲ-2 子育ての大変さをわかってくれる人がいる	はい	365	75.7	401	83.2	0.000***	
	いいえ	117	24.3	81	16.8		
	合計	482	100.0	482	100.0		
Ⅲ-3 子育ての相談が出来る人がいる	はい	401	83.0	423	87.6	0.000***	
	いいえ	82	17.0	60	12.4		
	合計	483	100.0	483	100.0		
Ⅲ-4 子どもの健診(0歳、1歳、3歳児健診など)は受けている	はい	476	98.8	473	98.1	0.004**	
	いいえ	6	1.2	9	1.9		
	合計	482	100.0	482	100.0		
Ⅲ-5 DVを受けている。過去に受けたことがある	過去	169	35.4	204	42.7	0.000***	
	今	28	5.9	23	4.8		
	いいえ	281	58.8	251	52.5		
	合計	478	100.0	478	100.0		
Ⅲ-6 過去にDVを受けたことがある人のみ:(過去のDVが)今も影響している	はい	125	76.2	114	69.5	0.001***	
	いいえ	39	23.8	50	30.5		
	合計	164	100.0	164	100.0		
Ⅲ-7 リラックスできる時間がある	はい	327	68.3	375	78.3	0.000***	
	いいえ	152	31.7	104	21.7		
	合計	479	100.0	479	100.0		
Ⅲ-8 子育て以外の困った時に相談できる人がいる	はい	355	73.7	379	78.6	0.000***	
	いいえ	127	26.3	103	21.4		
	合計	482	100.0	482	100.0		
Ⅲ-9 自分が楽しめることをしている	はい	258	54.5	310	65.5	0.000***	
	いいえ	215	45.5	163	34.5		
	合計	473	100.0	473	100.0		
Ⅲ-10 楽しいことを一緒にする友人や家族がいる	はい	331	70.0	351	74.2	0.000***	
	いいえ	142	30.0	122	25.8		
	合計	473	100.0	473	100.0		

注)\*\*\*:p<.001, \*\*:<.01

子育て状況については、表 4-1 に示すように、項目 4「子どもの健診は受けている」と項目 5「DV

を受けている。過去に受けたことがある」を除く 8 項目について肯定的な回答が有意に増えていた。

なお、項目 4「子どもの健診は受けている」については、プログラムの後の方が、子どもの健診を受けていると答えた人がやや少なくなっていた。項目 5の「DVを受けている。過去に受けたことがある」については、プログラムの後の方が、過去にDVを受けたことがあると答えた人が多くなっていた。

## 4-2 Wilcoxon の符号付き順位検定における育児意識と自己評価のプレとポストの比較

### 4-2-1 Wilcoxon の符号付き順位検定における育児意識のプレとポストの比較 (表 4-2-1)

育児意識については、すべての項目について、有意に順位が低くなっていた (ただし逆転項目 7, 10, 13 は高くなっていた)。

表 4-2-1 育児意識に関するプレとポストの比較 (Wilcoxon の符号付き順位検定) n=518

	プレ	人数	平均値	標準偏差	中央値	Z	漸近有意確率 (両側)
	ポスト						
I-1 手のかかる子どもがいるので腹が立つ	プレ	513	2.0	1.0	2.0	-10.827 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	489	2.6	1.0	3.0		
I-2 子どもは私を困らせてばかりいるように感じる	プレ	513	2.2	1.0	2.0	-11.115 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	487	2.8	0.9	3.0		
I-3 うちの子は、なかなか言うことを聞かないので腹が立つ	プレ	513	2.1	1.0	2.0	-9.750 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	488	2.5	0.9	2.0		
I-4 子どもを甘やかすとつけあがると思う	プレ	511	2.5	1.0	2.0	-9.407 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	488	3.0	0.9	3.0		
I-5 悪いことをしたら、体罰も必要だ	プレ	511	2.8	1.0	3.0	-14.034 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	489	3.7	0.6	4.0		
I-6 言ってもわからない時は、体罰でわからせることが必要だ	プレ	512	3.0	1.0	3.0	-12.499 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	488	3.7	0.6	4.0		
I-7 どんな場合でも、しつけにおいて、暴力をふるうべきではない	プレ	511	1.9	1.0	2.0	-7.576 <sup>c</sup>	.000
	ポスト	488	1.4	0.8	1.0		
I-8 言葉で1.2度注意してもきかない時は、ある程度の体罰もやむを得ない	プレ	507	2.8	1.0	3.0	-13.290 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	489	3.6	0.8	4.0		
I-9 子どもが危険な時、叱咤の暴力 (体罰) はやむを得ない	プレ	504	2.2	1.0	2.0	-14.128 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	488	3.2	1.0	4.0		
I-10 困ったことが起きても必ず解決できると思う	プレ	510	2.4	1.0	2.0	-8.984 <sup>c</sup>	.000
	ポスト	488	1.9	0.9	2.0		
I-11 困難に直面した時は悪い事態を考えるほうだ	プレ	513	1.6	0.8	1.0	-7.719 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	488	1.9	0.9	2.0		
I-12 面倒な事には最初からあきらめる	プレ	510	2.7	0.9	3.0	-2.411 <sup>b</sup>	.016
	ポスト	488	2.8	0.8	3.0		
I-13 困った時は、誰かに相談できる	プレ	510	2.1	1.0	2.0	-4.491 <sup>c</sup>	.000
	ポスト	488	1.9	0.9	2.0		

注 1) a. Wilcoxon の符号付き順位検定, b. 負の順位に基づく, c. 正の順位に基づく

2) 1位: はい, 2位: どちらかといえばはい, 3位: どちらかといえはいいえ, 4位: いいえ

#### 4-2-2 Wilcoxon の符号付き順位検定における自己評価のプレとポストの比較(表 4-2-2)

自己評価についてはすべての項目（15 項目）について有意に順位が高くなっていた。

表 4-2-2 自己評価に関するプレとポストの比較（Wilcoxon の符号付き順位検定） n = 518

	プレ ポスト	人数	平均値	標準偏差	中央値	Z	漸近有意確率 (両側)
II-1 私は価値のないつまらない存在だと思うことがある	プレ	512	3.2	1.3	3.0	-8.127 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	488	2.7	1.2	3.0		
II-2 自分の人生は辛いことが多すぎだと思うことがある	プレ	509	3.0	1.3	3.0	-6.985 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	489	2.6	1.2	2.0		
II-3 人はどうせ自分から離れていってしまうと思う	プレ	510	2.7	1.4	2.0	-5.384 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	485	2.4	1.2	2.0		
II-4 つらいときにも助けをもとめることができない	プレ	506	2.8	1.4	3.0	-5.734 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	487	2.5	1.3	2.0		
II-5 自分のほんとうの気持ちを人に語れないときがある	プレ	512	3.3	1.3	3.0	-6.723 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	485	2.8	1.3	3.0		
II-6 子どもに暴言を吐いてしまう	プレ	509	4.0	1.1	4.0	-11.733 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	483	3.3	1.2	3.0		
II-7 子どもをほめるよりも、けなしてしまう	プレ	509	3.8	1.2	4.0	-11.212 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	480	3.1	1.2	3.0		
II-8 怒りを子どもに爆発させてしまう	プレ	512	3.9	1.7	4.0	-12.389 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	482	3.2	1.1	3.0		
II-9 しつけとして、子どもをベランダや屋外に閉めだす	プレ	513	1.6	0.9	1.0	-8.898 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	484	1.2	0.5	1.0		
II-10 罰として、こどもの気に入っているものを壊す	プレ	514	1.6	0.9	1.0	-6.058 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	484	1.4	0.7	1.0		
II-11 つい子どもに怒鳴っている	プレ	512	4.3	1.0	5.0	-12.924 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	484	3.5	1.2	4.0		
II-12 腹がたつと、子どもを無視する	プレ	512	3.2	1.4	4.0	-8.951 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	483	2.6	1.3	3.0		
II-13 しつけとして、子どもに平手で叩く	プレ	512	2.7	1.2	3.0	-12.477 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	483	1.9	1.1	1.0		
II-14 子どもにげんこつで殴る	プレ	513	1.7	1.2	1.0	-6.551 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	483	1.4	0.8	1.0		
II-15 子どもを足蹴りする	プレ	513	1.8	1.1	1.0	-8.379 <sup>b</sup>	.000
	ポスト	483	1.4	0.8	1.0		

注 1) a. Wilcoxon の符号付き順位検定, b. 正の順位に基づく

2) 1位: 全くない, 2位: 年に1, 2回ある, 3位: 月に1, 2回ある, 4位: 週に1, 2回ある, 5位: ほとんど毎日

### 4-3 因子分析

#### 4-3-1 育児意識に関する因子分析（表 4-3-1）

「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の実施後に行ったアンケート調査の育児意識に関する 13 項目の因子分析（重みなし最小二乗法，プロマックス回転）を行った。その結果，表 4-3-1 に示すように，3 つの因子を抽出することができた。第 1 因子は「体罰容認」，第 2 因子は「被害感情」，第 3 因子は「悲観的思考」と命名した。それぞれの因子について下位尺度得点を算出した。ただし，I-7，10，13 は逆転項目である。

表 4-3-1 育児意識に関する因子分析

	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
	体罰容認	被害感情	悲観的思考	
I-6 言ってもわからない時は、体罰でわからせることが必要だ	.900	-.020	-.058	.767
I-5 悪いことをしたら、体罰も必要だ	.875	-.024	-.041	.730
I-8 言葉で1.2度注意してもきかない時は、ある程度の体罰もやむを得ない	.829	-.016	.034	.696
I-9 子どもが危険な時、咄嗟の暴力（体罰）はやむを得ない	.602	.019	.036	.387
I-7 どんな場合でも、しつけにおいて、暴力をふるうべきではない	-.489	.008	.015	.231
I-4 子どもを甘やかすとつけあがると思う	.417	.190	.119	.335
I-1 手のかかる子どもがいるので腹が立つ	-.006	.876	-.027	.742
I-3 うちの子は、なかなか言うことを聞かないので腹が立つ	-.021	.871	-.077	.692
I-2 子どもは私を困らせてばかりいるように感じる	.051	.682	.113	.578
I-10 困ったことが起きても必ず解決できると思う	-.027	.092	-.702	.456
I-11 困難に直面した時は悪い事態を考えるほうだ	-.129	.109	.520	.295
I-13 困った時は、誰かに相談できる	-.011	.034	-.408	.158
I-12 面倒な事には最初からあきらめる	.100	.016	.406	.209
寄与率(%)	30.331	12.045	5.908	
累積寄与率(%)	30.331	42.376	48.284	
Cronbach の $\alpha$ 係数	.827	.852	.579	
因子抽出法: 重みなし最小二乗法 , 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法				

#### 4-3-2 自己評価に関する因子分析（表 4-3-2）

育児意識の因子分析と同様に、「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の実施後に行ったアンケート調査の自己評価に関する 15 項目の因子分析（重みなし最小二乗法，プロマックス回転）を行った。その結果，表 4-3-2 に示すように，3 つの因子を抽出することができた。第 1 因子は「感情コントロール困難」，第 2 因子は「孤立感・不信感」，第 3 因子は「身体的暴力」と命名した。それぞれの因子について下位尺度得点を算出した。

表 4-3-2 自己評価に関する因子分析

	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
	感情コントロール困難	孤立感・不信感	身体的暴力	
II-8 怒りを子どもに爆発させてしまう	.889	.046	-.026	.798
II-6 子どもに暴言を吐いてしまう	.881	-.015	-.023	.744
II-1 1つい、子どもに怒鳴っている	.866	-.038	-.010	.715
II-7 子どもをほめるよりも、けなしてしまう	.790	-.002	.006	.627
II-12 腹がたつと、子どもを無視する	.576	-.004	.123	.424
II-3 人はどうせ自分から離れていってしまうと思う	-.013	.815	-.016	.649
II-4 つらいときにも助けをもとめることができない	-.012	.812	.006	.655
II-2 自分の人生は辛いことが多すぎると思うことがある	-.084	.746	.037	.529
II-1 私は価値のないつまらない存在だと思うことがある	.083	.730	-.021	.576
II-5 自分のほんとうの気持ちを人に語れないときがある	.025	.687	-.008	.482
II-15 子どもを足蹴りする。	-.073	-.057	.876	.675
II-14 子どもにげんこつで殴る	-.073	.047	.688	.442
II-13 しつけとして、子どもに平手で叩く	.241	.052	.545	.534
II-10 罰として、こどもの気に入っているものを壊す	.156	-.006	.439	.292
II-9 しつけとして、子どもをベランダや屋外に閉めだす	.053	-.006	.353	.148
寄与率(%)	35.472	13.307	6.486	
累積寄与率(%)	35.472	48.779	55.265	
Cronbach の $\alpha$ 係数	.901	.870	.750	
因子抽出法: 重みなし最小二乗法, 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法				

#### 4-4 育児意識下位尺度得点と自己評価の下位尺度得点に関するプログラム実施前後の比較

(表 4-4, 図 4-4-1, 図 4-4-2)

「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の効果を検討するために、育児意識の3因子の下位尺度得点と自己評価の3因子の下位尺度得点について、プログラム実施前後の各因子の下位尺度得点に有意差があるかどうかウィルコクソンの順位和検定を行った。

表 4-4, 図 4-4-1 と図 4-4-2 からわかるように、いずれもプログラム実施後の下位尺度得点は、プログラム実施前の下位尺度得点より 0.1%の危険率で有意に低くなっていた。

この結果から、「MY TREE ペアレンツ・プログラム」に参加することによって、体罰容認、被害感情、悲観的思考などの育児意識は軽減され、また、感情コントロール困難、孤立感・不信感、身体虐待などの自己評価も軽減されることが明らかになった。

表 4-4 育児意識や自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較

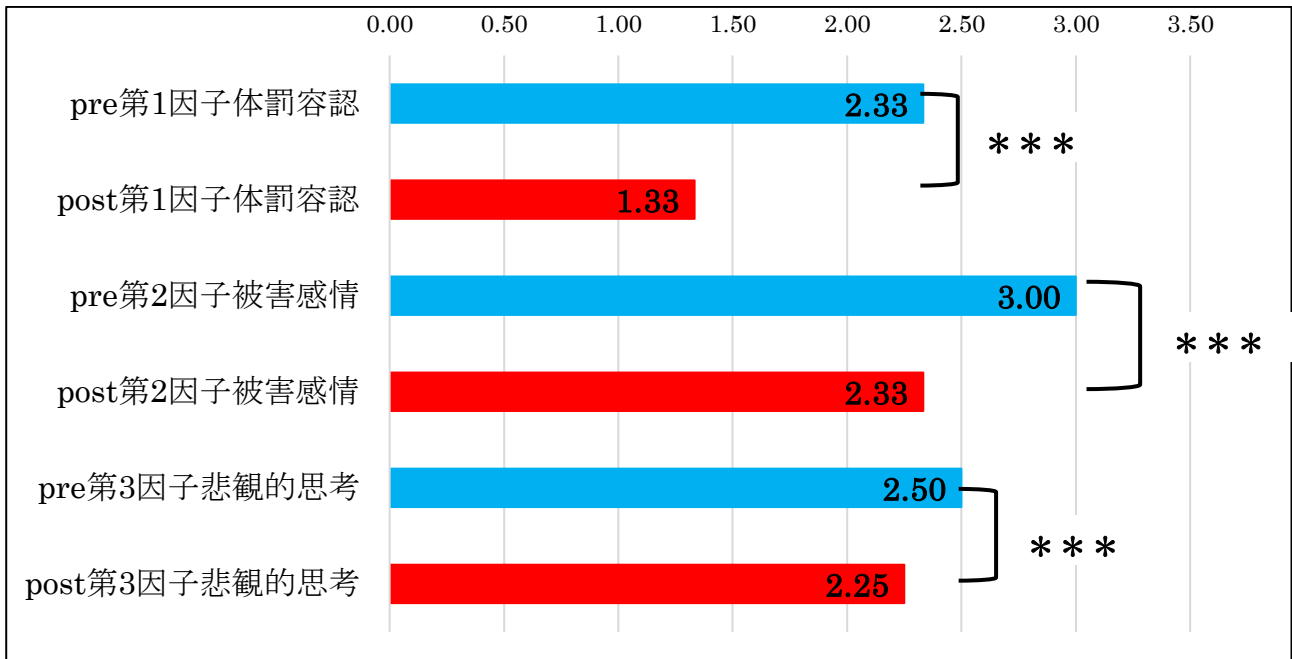
因子名		プレ ポスト	人数	順位平均 値	中央値	Z	漸近有意 確率 (両 側)
育児 意識	第1因子体罰容認	プレ	498	2.27	2.33	-16.400 <sup>b</sup>	.000
		ポスト	485	1.55	1.33		
	第2因子被害感情	プレ	511	2.89	3.00	-12.600 <sup>b</sup>	.000
		ポスト	487	2.34	2.33		
	第3因子悲観的思考	プレ	508	2.54	2.50	-9.649 <sup>b</sup>	.000
		ポスト	486	2.27	2.25		
自己 評価	第1因子感情コントロール困難	プレ	505	3.62	3.80	-10.274 <sup>b</sup>	.000
		ポスト	478	3.13	3.20		
	第2因子孤立感・不信感	プレ	500	3.00	3.00	-8.858 <sup>b</sup>	.000
		ポスト	481	2.60	2.40		
	第3因子身体的暴力	プレ	511	1.89	1.80	-13.543 <sup>b</sup>	.000
		ポスト	483	1.46	1.20		

a. Wilcoxon の符号付き順位検定

b. 正の順位に基づく

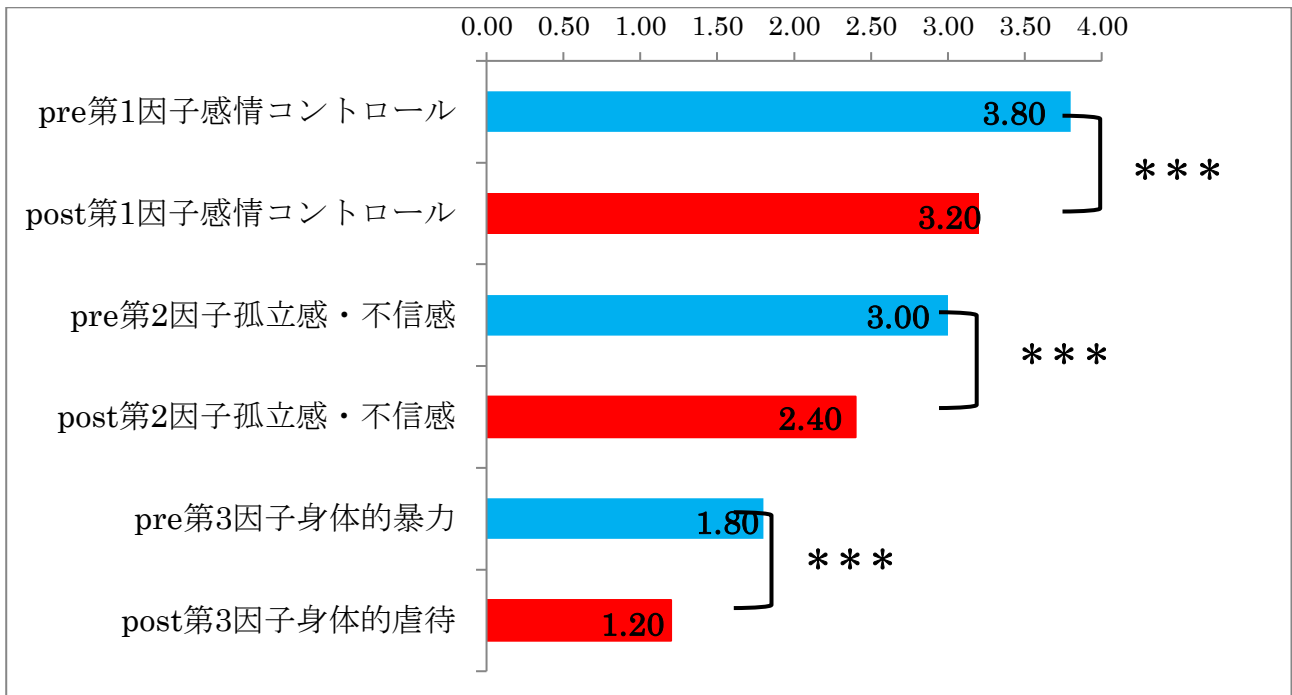


図 4-4-1 育児意識に関する下位尺度得点のプレとポストの比較 (n=518)



注) \*\*\* :  $p < .001$

図 4-4-2 自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較 (n=518)



注) \*\*\* :  $p < .001$

## 5. 結論

分析の結果、以下の4点が明らかになった。

①子育て状況については項目4「子どもの健診は受けている」と項目5「DVを受けている。過去に受けたことがある」を除く8項目について肯定的な回答が有意に増えていた。

②育児意識については、すべての項目についてポストの方が有意に順位（1位：はい、2位：どちらかといえばはい、3位：どちらかといえばいいえ、4位：いいえ）が低くなっていた。ただし逆転項目7, 10, 13は高くなっていた。このことからプログラムを受けることによって育児意識が肯定的に変化したことが明らかになった。

③自己評価については、すべての項目（15項目）についてポストの方が有意に順位（1位：全くない、2位：年に1,2回ある、3位：月に1,2回ある、4位：週に1,2回ある、5位：ほとんど毎日）が高くなっていた。このことからプログラムを受けることによって自己評価が肯定的に変化したことが明らかになった。

④育児意識と自己評価に関する項目を因子分析した結果、育児意識については「体罰容認」「被害感情」「悲観的思考」の3因子、自己評価については「感情コントロール困難」「孤立感・不信感」「身体的暴力」の3因子が抽出された。これらの3因子の下位尺度得点を算出するにあたって、否定的であるほど得点が高くなるように得点を付値した。すべての因子の下位尺度得点についてポストの方が有意に低くなっていたことから、肯定的に変化したといえる。

以上のことから、「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の効果が明らかになった。

(八重樫牧子記)